

国語科学習指導案

日時 平成28年7月25日(月) 1校時

児童 2年生

授業者

場所

1 単元名 心に残った場面を音読で発表しよう～「きつねのおきゃくさま」～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする言語活動を通して、場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読む力を高めることや、本のおもしろさを感じ、日常の読書生活を楽しむ態度を養うことを目指している。本単元で扱う中心教材「きつねのおきゃくさま」は繰り返し描かれる展開を基に登場人物の行動の変化について読み進めやすい作品である。繰り返しの構造の中には、共通点と相違点があり、同じような文の中にも細かな言葉の変化が巧みに用いられている。中心人物であるきつねは、始めひよこたちを太らせてから食べようとしていたが、「優しいお兄ちゃん」「親切なお兄ちゃん」「神様みたいなお兄ちゃん」と言われるたびに、徐々に行動に変化が表れてくる。このような視点に気付いていくことで、繰り返しの展開のおもしろさを感じながら読むことができるような作品になっている。また、昔話の語り口調に親しみを持ちながら音読することもできるものである。

さらに、「5回もつぶやいた」「おお、戦ったとも、戦ったとも」「実に、実に、勇ましかったぜ」など、きつねの気持ちや行動を巧みに描いている地の文に注目すると、よりその場面の様子を具体的に想像して読むことができる。これらのような作品の特徴から、登場人物の行動や会話などから根拠を持って場面の様子を想像したり、昔話のおもしろさに気付いていく態度を養ったりすることに適した教材であると言える。

(2) 児童観

これまでに、児童は文学的文章においては次のような活動を体験し、言葉の力を身に付けてきた。

これまでに児童の体験した活動	それによって獲得した言葉の力	前単元までに既に身に付けている言葉の力なので、本単元において活用を図るもの
<ul style="list-style-type: none"> ○短い文章のあらすじや登場人物の気持ちを考えながら音読する活動 ○繰り返し描かれる展開を楽しみながら、物語を演じる活動 ○登場人物の気持ちや場面の様子をまとめて、紹介する活動 ○場面の大きな様子を捉え、紙芝居をする言語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間や場所などの状況設定を考えながら読む力 ○登場人物の行動や会話を読む力 ○登場人物の会話や行動から、その場面の気持ちを読む力 ○登場人物の行動や会話を基に、場面の様子について想像を広げながら読む力 	<ul style="list-style-type: none"> ○各場面の登場人物の行動の変化を読む力 ○登場人物の気持ちを考えながら、場面の様子について想像を広げて読む力

3 単元目標

物語の中で心に残った場面を音読で発表する言語活動を通して、登場人物の行動の変化や会話を基に場面の様子についての想像を膨らませて読むことができる。

4 評価規準及び道徳的学び

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能	道徳的学び
ア 自分の読書体験を想起したり、読み聞かせを聞いたりしながら、本の楽しさを味わって読もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ア 物語の大まかな内容を捉えながら中心教材を読んでいる。 イ 中心教材の中で、場面の印象的なところを捉えて読んでいる。 ウ 中心教材の大体の内容を捉えながら、場面の印象的なところを捉えて読んでいる。 エ 中心教材の登場人物の行動や会話を基に、人物の気持ちや各場面の様子を想像して読んでいる。 オ 中心教材の登場人物の行動の変化がわかる言葉を基に、その場面の様子を想像して読んでいる。 カ 中心教材の登場人物の行動の変化がわかる言葉を基に、音読の方法を工夫しながら、各場面の様子を想像を広げて読んでいる。 キ 関連する他作品の登場人物の行動の変化がわかる言葉を基に、自分が選んだ場面についての想像を広げながら読んでいる。 ク 関連する他作品の登場人物の行動の変化がわかる言葉を基に、音読の方法を工夫しながら想像を広げて読んでいる。 	ア 言葉のつながりやまとまりに注目しながら読んでいる。	B 「友情、信頼」 友達と仲よく、助け合いながら自分で考えた音読を発表し合う。

5 単元の指導計画（全11時間）

時	主な学習活動	教師の働きかけ	評価
1	<ul style="list-style-type: none"> これまで自分が読んできた繰り返しの構造を持つ本について紹介し合う。 中心教材「きつねのおきゃくさま」の読み聞かせ（紙芝居）を聞き、感想や疑問を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想（作品の雰囲気）や状況設定（時・人物・場所・何が）、疑問を整理し、あらすじを捉えることができるようにする。 	関ア
2	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」で、心に残った場面を音読で発表することを知り、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読発表の見本を提示し、視点を持ちながら大まかな学習計画を考えることができるようにする。 	読ア
3	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」の大体のあらすじを捉える。 「語彙理解・内容理解」「物語の特徴」に関わる謎を全体で共有し解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語の謎を位置付け、それらが解決することにより、「どう読んだらよいか」という音読発表の質が高まっていくことを捉えられるようにする。 全文を俯瞰してみたり、書き込んだりできるオリジナルブックを提示し、謎やその解釈を蓄積していくことができるようにする。 	読イ
4	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」のひよことあひるが登場する場面の「読み方の謎」を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> オリジナルブックに謎とその解釈を書き込み、「読み方の謎」があるのかを考えながら、きつねの行動の変化を捉えることができるようにする。 	読ウ
5	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」のひよこ、あひる、うさぎが登場する場面の「読み方の謎」を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 既読の場面の謎とその解釈を関連させながら、「読み方の謎」について考え、きつねの行動の変化やそのきっかけとなる言葉を捉えることができるようにする。 	読エ 言ア
6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」のおおかみが登場する場面とその後の場面の謎について交流し、物語全体を通してのきつねの行動の変化をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで解決してきた謎の解釈や根拠としている言葉を取り上げて関連付けていくことで、人物の行動の変化とその根拠、場面の様子についての自分の読みに一貫性を持たせることができるようにする。 	読オ
7	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」の登場人物の行動の変化とそれぞれの場面の様子について交流しながら、一番心に残った場面を選択し、音読発表に向けてのイメージを膨らませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面ごとの登場人物の行動を俯瞰して捉えることで、自分が選択した場面の様子をどのように表せるのかを整理することができるようにする。 	読カ
8	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材「きつねのおきゃくさま」で隣の学級に音読の発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 謎を解決し、物語を楽しみながら音読できたことを価値付けすることで、他者との交流のよさや自分の言葉の力の高まりを実感することができるようにする。 	
9 10	<ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだお話の中から、自分のお気に入りのお話を選び、物語の全文を確かめながら、「読み方の謎」を解決する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個や同じお話を選んだ小グループに、中心教材で学習した謎を解決する視点で読むことを促し、他作品の言葉を楽しんだり、親しんだりしながら「意識的に」既得の言葉の力を活用できるようにする。 	読キ
11	<ul style="list-style-type: none"> 自分で選んだお話で自学級の友達に音読の発表を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中心教材で獲得した言葉の力を生かして、音読の発表を行うことができたことを価値付けることで、自ら他作品と関わることができた実感を味わうことができるようにする。 	読ク

6 小中連携の視点

	小学校2年生	小学校3年生	中学校2年生
目指す 子供の姿	<p>学年で「きつねのおきゃくさま」の心に残った場面を音読で発表する活動を通して、登場人物の行動や会話に着目しながら、想像を広げて読む姿。 言葉を楽しんだり、言葉に親しんだりしながら読書の世界を広げていく姿。</p>	<p>自分の選んだ「三木卓作品」で音読を行う活動を通して、登場人物の行動や会話に即しながら、その性格を捉えて読む姿。 目的に応じて、様々な本を選びながら読んでいこうとする姿。</p>	<p>中心教材の作品と、その作品のモチーフとなった作品を比較する活動を通して、作者が中心教材の作者が込めたメッセージを捉える姿。 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめる姿。</p>
手立ての 視点	<ul style="list-style-type: none"> 言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定 「読み方の謎」の設定による「読む視点」を焦点化、場面ごとの登場人物の行動の比較を促す場の設定と教師のかかわり 登場人物の行動が変化する作品や繰り返し構造を持つ作品の提示、作品の関連性や類似性への気づきを促す教師のかかわり 	<ul style="list-style-type: none"> 言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定 「物語の謎」の設定による「読む視点」を焦点化、叙述の比較・有機的関連付けを促す場の設定と教師のかかわり 同じ作者の作品や同じ登場人物が登場する作品の提示、作品の関連性や類似性への気づきを促す教師のかかわり 	<ul style="list-style-type: none"> 身に付けるべき言葉の力を明確化した言語活動の位置付け 特定の思考過程を経由することを促し、かつ生徒の予想を覆しうる課題設定もしくは発問の工夫

単元 の 序 盤	Ⅲの変容 Ⅰ状況的興味の喚起・維持を促すために【言語意識を明確にした単元を貫く言語活動の設定】			
	教材名 きつねのおきゃくさま	教材の特徴 繰り返し描かれる展開を基に、登場人物の行動の変化を読みやすい。	指導事項 登場人物の行動の変化を読む力	言語活動例 イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする言語活動
単元 の 中 盤	<p>①「言葉との出会い」の工夫 まず、前回の物語「えいっ」で挿絵に吹き出しをつけることにより、心の声を想像して読み、「お話の楽しみ方」を1つ知ったことを想起する。その後、「大きなかぶ」など、これまで読んできた繰り返しの構造を持つお話やそのおもしろさについて交流し、「きつねのおきゃくさま」を紹介して読み聞かせ（紙芝居）を行い、児童が言葉に「楽しさ」や「親しみやすさ」を感じることができるようにする。さらに、学級文庫として他作品を紹介する。これらの他作品を、単元終盤で読んだときに、中心教材との「関連性や類似性」に気付きながら読みを広げていくことに生かされていくようにする。</p> <p>②「言語意識」との関わり 児童が言葉に「楽しさ」や「親しみやすさ」を感じてきた段階で、言語活動『心に残った場面を音読で発表しよう』を提案する。それを受けて、「“お話をもっと楽しく読むため”にはどんな音読をしたらよいのかな？」という思考を引き出ししていく。また、発表する相手を隣の学級の友達とし、2年生全員でお話の楽しさを交流していくことについて意識できるようにする。</p> <p>③単元を貫く言語活動に向けた「やるべきこと」の対話的・相談的な提案 心に残った場面を音読で発表するための計画について交流していく。その際、見本を見て、「音読の仕方を工夫していく必要があること」に気付くことができるようにする。それにより、児童が自ら視点を焦点化し、教師とのかかわりの中で学習計画を立てていくことができるようにする。</p>			
	①日常の言語生活との関連を図りながら、言葉と関わろうとする子供			
単元 の 終 盤	Ⅳ個人的興味の出現を促すために 【読む視点を焦点化する教師のかかわり】			
	作品と出合う段階	感想を交流しながら物語の謎について話し合う場を設定する。この段階では、「みぶるって何？」「あったとさってどういうこと？」などの「 語彙理解、内容理解に関わる謎 」を全員で解決して作品を読み進める土台をつくっていく。また、「春や夏の歌ってどんなもの？」「虹の森ってどこ？」など、根拠を持って解決できない謎を「 物語の特徴に関わる謎 」として捉えることにより、身に付けさせたい言葉の力と関わる謎のみに焦点化できるようにする。		
作品を読み進める段階	一人一人が発見した物語の謎を追究していくための方法として、「きつねのおきゃくさま」のオリジナルブックを紹介する。「ぼうっとなった、のときはどのように読んだらよいのかな？」「おおかみと戦っているときのきつねをどう読もうかな？」などの「 読み方の謎（どんな音読をすればよいの？） 」を全体で解決しながら、個やグループごとの方法で謎に迫り、「なぜ、そのように演じるか」を考えることできつねの行動の根拠が明確になるようにする。その際、地の文の音読方法や他の動物の動きについては重点的に扱わないこととする。			
<p>Ⅲ-①内的活動の高まりを促すための工夫【叙述の比較・有機的関連付けを促し、自己の読みを再構成する場の設定】</p> <p>個や少人数で読み進める場面 主に、叙述の欠落を補填し、内容理解を促す発問や問い返しを行う。その際、語彙の獲得数や言葉のまとまりが原因で読解ができない児童には、語彙の意味がわからないところを問い、全体で共有しながら解決したことをメモしていくように促す。少人数で関わっている児童には、叙述の欠落を補填することに加え、矛盾や飛躍を修正する発問や問い返しを行う。その際、同様の謎を解決している児童同士をつなぎ、解釈や根拠とする人物の行動や会話などの交流を促すことで、自分の解釈にある程度の妥当性を持つことができるようにする。</p> <p>全員による集団解決場面 個や少人数で生み出した解釈や根拠となる行動や会話などを引き出ししながら、きつねの行動の変化と場面の様子の関連に気付くことができるような発問や問い返しを行う。また、毎時間の終末に再度謎の解釈を考えること（個への回帰）で、自分の解釈の変容を捉えながら読み返すことができるようにする。</p>				
Ⅲ-②登場人物の行動の変化や場面の様子に関連に気付かせる発問・問い返しの例				
<p>①どの場面のきつねの行動も同じだね？ ②きつねが戦ったおおかみは弱かったから逃げて行ったんだね？ ③倒されてしまったから恥ずかしそうに死んだのかな？ ④きつねの行動が変わっていくことがわかる言葉ってある？</p>				
②自ら言葉に働きかけながら、表現をよりよいものにしようと伝え合う子供				
単元 の 終 盤	<p>Ⅳ発達した個人的興味の出現を促すために 【獲得した言葉の力を広げることができるような本や文章の提示】</p> <p>中心教材で獲得した言葉の力を運用していくことができる本や文章を教師が選書し、児童に提示する。本単元における「中心教材との関連性・類似性」を以下の視点で捉え、他作品を選書する。</p> <p>①登場人物が動物のお話であること。 ②中心人物の行動の変化を基に、その場面の様子を想像しながら読むことができるお話であること。 ③繰り返しの言葉や構造を持つお話であること。</p> <p>【児童に紹介する作品の例】</p> <p>◆「あしたもともだち」 うちだ りんたろう ◆「おまえうまそうだな」 みやにし たつや ◆「わにのバンボ」 おおいし まこと</p>		<p>Ⅲ-①内的活動の高まりを促すための工夫 【中心教材と他作品をつなぐ教師のかかわり】</p> <p>他作品と関わったときに児童が気付く「関連性や類似性」は登場人物などの「作品の設定」に関わることでありと考える。そのため、教師は他作品においても物語の謎を解決していくことにより、読み方が変化していくことに気付くよう意図的に関わっていく必要がある。そこで、教師は「登場人物の行動の変化と場面の様子」について、意図的に「関連や類似」を促していく。これらの視点を促すことで、「意識的に」既得の言葉の力を運用しようとする思考を引き出しながら、自らの力で読みの一貫性を高め、音読の発表に向かうことができるようになる。その際、他作品で読み取ったことと中心教材との「関連や類似」を図ることができたことについて価値付けすることで、より読書を楽しんだり、読書に親しんだりしながら主体的に読み進めることができるようになる。と考える。</p>	
	③言葉を楽しんだり、言葉に親しんだりしながら言葉との関わり方を拡充する姿			

8 本時について（6/1 1時間目）

(1) 研究とのかかわり

本時においては、主に研究の視点Ⅱ-（1）について手立てを講じていくことになる。

個や少人数で言葉と関わる場面

表出した謎に関わる簡単なト書きやその根拠をオリジナルブックに書き込んでいくことを促すことで、自分の解釈の一貫性を問うことができるきっかけになるようにしていく。

少人数で関わっている児童には、謎の解釈やその根拠とした言葉や文を交流することで、個で生み出した解釈に一定の妥当性を持たせることができるようにする。

全員で言葉と関わる場面

交流の中で生み出された空所を基に、謎についての自分の解釈や根拠とした言葉や文について交流することで、自己の読みを振り返りながら、考えを付加したり、改めたりし、謎の解釈の一貫性を持たせることができるような視点等に関わる発問や問い返しをしていく。

(2) 本時の目標

登場人物の会話や行動を表す叙述を基に音読する活動を通して、登場人物の行動の変化と場面の様子を関連付けながら、想像を膨らませて読むことができる。

(3) 本時の展開

○児童の主な学習活動	□教師の働きかけ・留意点 ☑自己肯定感	【評価】 個に応じた指導 (△発展的▲補充的)
<p>○全文を音読したり、「読み方の謎」について交流したりしながら、前回来までの内容を想起し、本時の活動の見通しを持つ。</p> <p>・前回来までは、おおかみと戦う前までの「読み方の謎」を解決して、自分の考えがまとまってきたよ。 ・謎を解決していくと、音読の仕方がだんだんわかってきたよ。 ・おおかみが登場する場面やきつねが死んでしまった場面はどんな読み方ができるのかな。</p>	<p>□前時までに、解決してきた謎を黒板に整理することで内容を想起させるとともに、本時の場面における「読み方の謎」を全体で共有することで、本時で読み進めていく内容についての見通しを持てるようにする。</p> <p>Ⅱ</p>	
<p>「きつねのおきゃくさま」で音読のプロになろう ～たたくいとそのご～</p>		
<p>○おおかみが登場する場面やその後の場面の読み方を考える。</p> <p>個や少人数で言葉と関わる場面</p>	<p>□個や少人数で読み方を考えている場面においては、「どのような謎を発見したのか」や、「その言葉をどのように読むのか」について中心的に問い返していく。この段階では読み方の根拠は整理できていなくてもよいこととする。</p> <p>Ⅱ-（1）</p>	<p>【読オ～ 観察・発言・記述】</p>
<p>・「読み方の謎」を発見して、どう読むのかを考えよう。 →「いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」とおおかみが言った後、きつねが飛び出したところはどう読むかな。 →強く、勢いよく読んだ方がよいと思うよ。 →でも、なぜそう読んだ方がよいかは、まだはっきりしないな。</p>		<p>▲活動が停滞している児童には、友達の考えを聞きながら自分の解釈を整理していくように促す。</p>
<p>全員で言葉と関わる場面</p>	<p>□「どう読むのか」「なぜそのように読むのか」を問うことで、個々の読みとその根拠を引き出すとともに、物語全体を通してのきつねの行動の変化やその場面のきつねのひよこたちへの思いを関連付けながら、読み方の根拠を明確にすることができるようにする。</p> <p>Ⅱ-（1）</p>	<p>△根拠となる叙述を明確にして話合いをすることができている児童には、その他の言葉との関連を促していく。</p>
<p>・どんな読み方を考えたのかを交流しよう。 →「おお」のところや2回目の「戦ったとも」を力強い読み方にした方がよいと思うよ。 →「おお、戦ったとも、戦ったとも。」「実に、実に勇ましかったぜ」という文があるから、本当に一生懸命戦ったことがわかるよ。 →自分を守るためではなく、自分のことを生れてはじめて「優しい」「親切」「神様みたい」と言ってくれたひよこたちへの思いが込められているんじゃないかな。 →そうやって守ったことが少し照れくさかったから「はずかしそうにわらってしんだ」んだと思うよ。</p>	<p>□「どう読むのか」「なぜそのように読むのか」を問うことで、個々の読みとその根拠を引き出すとともに、物語全体を通してのきつねの行動の変化やその場面のきつねのひよこたちへの思いを関連付けながら、読み方の根拠を明確にすることができるようにする。</p> <p>Ⅱ-（1）</p>	<p>▲根拠となる言葉や文に着目できていない児童には、全体への問い返しや板書の内容を基に理解を促すことができるようにする。</p>
<p>○個々に読みを振り返り、オリジナルブックに「読み方の謎」の解釈やその根拠をまとめたり、音読したりする。</p>	<p>☑全体交流を基に、再度、個で読み直したり、音読のポイントを記述させたりすることで、自分の表現を見直したり、工夫したりしながら自分の読みをより確かなものにするようにする。</p> <p>Ⅱ-（1）</p>	<p>△自分の解釈が的確に整理できている児童がいた場合、その解釈を全体に共有していくことができるようにする。</p>
<p>→きつねは、自分は死んでしまったけど、「ひよこたちを守れてよかった」という気持ちだと思うよ。「わらっていた」きつねは、優しいような顔をしていたんじゃないかな。 →だから、きつねが「はずかしそうにわらってしんだ」ところは、優しい読み方してみようかな。</p>		
<p>○本時における自分や他者の読みについて振り返り、次時への見通しを持つ。</p>	<p>☑本時を振り返り、様々な謎とその解釈の交流を通して、自分の読みの根拠がより明確になったことについての価値付けを行い、音読発表に向けた意欲を高めることができるようにする</p>	
<p>・「読み方の謎」を解決することで、きつねの気持ちになって力強く読むところがはっきりしたよ。 ・どんな言葉に注目すれば、お話を楽しみながら音読することができるのかがわかってきたよ。</p>		<p>【読オ～ 観察・発言・記述】</p>